

「あなたを守り教える方」

～ 風と共に ～

ヨハネ 14:26～27 詩篇 51:10～13

■ 聖霊と風

人が住んでいるか住んでいないか 部屋の状態は何が違うのでしょうか。その違いは、「風」が流れているか滞っているかの違いです。家は人が住んでいないと「風」が通らず滞ってしまうのと同じで、私たちの心も「聖霊」がいなければ「風」が通らず滞んでしまいます。主人を失って淀んだ家は、どうなるでしょうか。崩れ落ちてしまうのです。

『しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。』(ヨハネ 14:26)

この御言葉にあるように、「聖霊」はいつも私たちに進むべき道を思い起こさせてくださいます。だからこそ心の扉を開き、「聖霊」に聞く必要があるのです。

■ あなたは「聖霊」と一緒にいますか

ダビデはバテシェバという夫がいる女性に心を撃たれその女性を取ってしまいました。そして、その夫のウリヤを激戦区に送り殺してしまいます。その時に預言者サムエルがダビデのところに来てこのように言いました。「その人の大事にしている羊を奪ってその羊を買っていたものを殺したものがいます。」それを聞いたダビデは「そのような酷いことをする者は殺してしまえ。」サムエルは答えます。「それは、あなたです。」このことを聞いたダビデは、自分の主人だった王サウルが「ひとまず自分の面目を保つために側にいてくれ。」と頼みましたが、ダビデはこのように祈りました。『神よ。私にきよい心を造り、ゆるがない霊を私のうちに新しくしてください。私をあなたの御前から、投げ捨てず、あなたの聖霊を、私から取り去らないでください。あなたの救いの喜びを、私に返し、喜んで仕える霊が、私をささえますように。私は、そむく者たちに、あなたの道を教えましょう。そうすれば、罪人は、あなたのもとに帰りましょう。』(詩篇 51:10-13)

私たちは道を踏み外してしまいます。しかし、ダビデが大切にしていたのは自分の立場ではなく、自分の正しい道を教えてください。あなたも、聖霊様と一緒にいることでした。

あなたは、聖霊様と一緒にいますか？

■ 赦されない罪とは(ルカ 12:6～10)

全ての問題の解決は、御霊なる聖霊様に私たちの心を開いて、御霊なる風である聖霊様の風を入れることなのです。あなたが扉を開けるならば聖霊様はあなたと交わることができるのです。

そして「赦されない罪」とは何でしょうか？ルカ 12:10 に次のような御言葉があります。『12:10 たとい、人の子をそしめることばを使う者があっても、赦されます。しかし、聖霊をけがす者は赦されません。』冒涇する(汚す)ものとは、扉を開けなさいと促されてもそれでも閉め続ける行為なのです。

失敗は良いのです。しかし、失敗した後が大切なのです。聖霊を冒涇しない(汚さない)とは、ダビデのように「聖霊を取り去らないでください」という態度です。あなたが聖霊様を傷つけて汚そうとした時に、もう一度、聖霊様の前に扉を開くことなのです。悔い改めて神様に立ち返ることなのです。あなたは、自分が間違えた時、神様のもとに帰る(罪を教えてください。聖霊様を心にお迎えすること)が出来ているのでしょうか？

「聖霊」はあなたに間違っていることを教える最後の砦なのです。

■ チリ 奇跡の救出から

2010年チリの炭鉱で大事故がありました。地下700メートル200階程の地底に33人の人が69日閉じ込められましたが、全員無事に救出される奇跡が起こりました。

その中に、炭坑夫として働いている牧師がいました。絶望の中で、

彼は毎日祈り、リーダーと一緒に手をとって毎日説教をして励ましていたそうです。実は彼は、結婚33年、この炭鉱に勤めて33年、そしてこの地で教会を始めて33年の時でした。イエス様の生涯と同じ33年。彼は20年前に海の底で仕事をしていて40時間、閉じ込められたことがありました。その際、彼は祈り続け奇跡的に救出されるという経験をしていました。彼はそれまで、何で自分は、こんな苦しい環境に遣わされて、死ぬ目にもあっても牧師をしているのかと思っていました。しかし、彼がその場所において、「私は20年前に海底の底から助け出された。」という彼の証や言葉に力がありました。そして、みんなが彼を信じて。リーダーが彼の言葉を励まして、誰一人命を落とさず生還しました。牧師やリーダーは不安ではなかったのでしょうか？そんなはずはありません。

『地の深みは主の御手のうちにあり、山々の頂も主のものである。』(詩篇 95:4)

過酷な状況や、こんな酷い目にあっても、クリスチャンがすべきことはこれなのです。彼らが助かったのは信じ抜く心なのです。彼らの心の平安と祈りが地上にいる人たちに届いて、みんなが協力して一致して科学的に奇跡を起こしたのです。

あなたの心は誰に聞きますか？あなたは誰の言葉を選びますか？私たちは正しい思いがあってもズレてしまいます。自分の正義ではなく聖霊様が悲しまれていないか神様の声を聞く必要があるのです。

■ 嫌だと思うことを大切に

～ 神様のなさることには意味がある～

『その教えとは、あなたがたの以前の生活について言うならば、人を欺く情欲によって滅びて行く古い人を脱ぎ捨てるべきこと、またあなたがたが心の霊において新しくされ、真理に基づく義と聖をもって神にかたどり造り出された、新しい人を身に着るべきことでした。ですから、あなたがたは偽りを捨て、おのおの隣人に対して真実を語りなさい。私たちはからだの一部分として互いにそれぞれのものだからです。怒っても、罪を犯してはなりません。日が暮れるまで憤ったままでいてはいけません。悪魔に機会を与えないようにしなさい。盗みをしている者は、もう盗んではいけません。かえって、困っている人に施しをするため、自分の手をもって正しい仕事をし、ほねおって働きなさい。悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。ただ、必要なとき、人の徳を養うのに役立つことばを話し、聞く人に恵みを与えなさい。神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、贖いの日のために、聖霊によって証印を押されているのです。無慈悲、憤り、怒り、叫び、そしりなどを、いっさいの悪意とともに、みな捨て去りなさい。お互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい。』(エペソ 4:22-32)

■ あなたは「聖霊」を受けていますか

聖霊様はあなたにこのこと(エペソ 4:22-32)を思い出させるためにおられます。

あなたの心が騒ぐ時、罪をおかしそうになった時、誘惑に負けそうになった時、怒りが出てきた時、人に冒涇された時、大きな問題が起きて不安になった時、是非、「聖霊」を求めて祈りましょう。そうすれば、どのようにすれば良いかを思い起こさせてください。聖霊のなされることには必ず意味があるのです。

『わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。』(ヨハネ 14:27)

(要約者:澤口 建樹)

(2022年 6月5日)